独立行政法人
国民生活センター

【法人番号 4021005002918】

報道発表資料

令和４年９月７日
独立行政法人国民生活センター

PIO-NETにみる2021年度の危害・危険情報の概要

この概要は、PIO-NET（注１）により収集した2021年度の「危害・危険情報」（注２）をまとめたものです。当該情報の詳細については、「消費生活年報2022」にまとめ、2022年10月に国民生活センターホームページ上に掲載する予定です。

2021年度の傾向と特徴

・全国の消費生活センター等から収集した「危害・危険情報」は13,194件で、対前年度比でみると12.2%減となっていました。

・「危害情報」は11,263件で、上位３商品・役務等は「**化粧品**」、「**健康食品**」、「**医療サービス**」でした。「危険情報」は1,931件で、上位３商品・役務等は「**四輪自動車**」、「**調理食品**」、「**電話関連機器・用品**」でした。

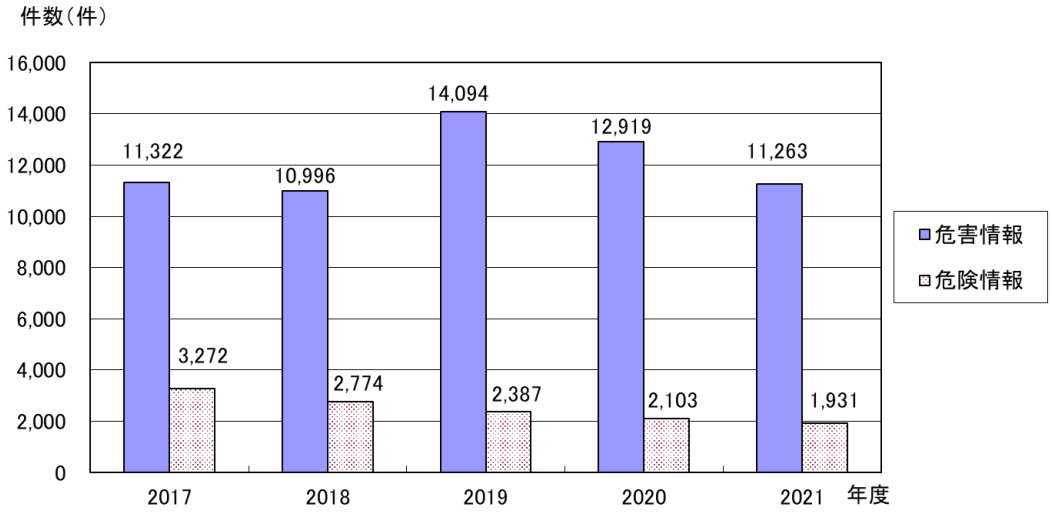
・「危害情報」は、2020年度より1,656件減少しました。「**化粧品**」が584件増加した一方で、「**健康食品**」が2,404件減少しました。被害者の性別は女性が８割近くを占めていました。

・「危険情報」は、2020年度より172件減少しました。2020年度に珪藻土（けいそうど）マットに関する報道の影響で大幅に増加した「**敷物類**」が74件減少したことなどによるためです。

（注１）PIO-NET （パイオネット：全国消費生活情報ネットワークシステム）とは、国民生活センターと全国の消費生活センター等をオンラインネットワークで結び、消費生活に関する相談情報を蓄積しているデータベースのこと。

（注２）「危害・危険情報」とは、商品・役務・設備に関連して、身体にけが、病気等の疾病（危害）を受けたという情報（「危害情報」）と、危害を受けたわけではないが、そのおそれがある情報（「危険情報」）をあわせたもの。データは、2022年５月末日までの登録分。消費生活センター等からの経由相談を除いています。

図.「危害・危険情報」の収集件数の推移



１.「危害情報」の概要

2021年度にPIO-NETにより収集した「危害情報」は11,263件でした（2020年度：12,919件）。

（１）商品別分類別件数

商品別分類別にみると、１位は、「保健衛生品」（「化粧品」、「医薬品類」、マスクなどを含む「他の保健衛生用品」、「家庭用電気治療器具」など）3,947件（35.0%）で、このうち「化粧品」が3,252件と、82.4%を占めていました（表１）。

２位は「保健・福祉サービス」（「医療サービス」、「エステティックサービス」、「歯科治療」、「整体」など）2,606件（23.1%）でした。

３位は「食料品」（「健康食品」、「調理食品」、「飲料」、「菓子類」など）1,984件（17.6%）でした。このうち「健康食品」が2020年度より2,404件減少し、1,131件（57.0%）でした。

４位は「住居品」（「洗濯用洗浄剤」、「家具類」、「ふとん類」など）776件（6.9%）、５位は「教養娯楽品」（「タバコ用品」、「健康器具」など）338件（3.0%）でした。

具体的に商品･役務等別にみると、１位は「化粧品」3,252件（28.9%）で、2020年度（２位、2,668件）より584件増加しました（表２）。内訳をみると「シャンプー」が2020年度より303件増加して560件でした。

２位は「健康食品」1,131件（10.0%）で、2020年度（１位、3,535件）より2,404件減少しました。2020年度より「高麗人参茶」が763件、「健康食品全般」が90件減少したことなどによるためです。

３位は、美容医療を含む「医療サービス」851件（7.6%）でした。

４位は「エステティックサービス」385件（3.4%）で、2020年度（４位、346件）より39件増加しました。

５位は「歯科治療」343件（3.0%）で、2020年度（６位、274件）より69件増加しました。

表１.「危害情報」の商品別分類の上位５位の推移

順位	2021年度	11,263 件		2020年度	12,919 件		2019年度	14,094 件	
	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	保健衛生品	3,947	35.0	食料品	4,369	33.8	食料品	4,868	34.5
2	保健･福祉サービス	2,606	23.1	保健衛生品	3,469	26.9	保健衛生品	3,478	24.7
3	食料品	1,984	17.6	保健･福祉サービス	2,220	17.2	保健･福祉サービス	2,637	18.7
4	住居品	776	6.9	住居品	850	6.6	住居品	773	5.5
5	教養娯楽品*	338	3.0	教養娯楽品*	410	3.2	他の役務*	403	2.9

※表中の割合は、小数点以下第２位を四捨五入した値です。
※2021年度に商品別分類を変更したことなどにより、＊が付いているものについては、2020年度以前と2021年度での時系列の比較はできません（「商品別分類」の名称が同じでも定義の変更により時系列での比較はできません)。

表２.「危害情報」の上位５商品・役務等の推移

順位	2021年度	11,263 件		2020年度	12,919 件		2019年度	14,094 件	
	商品･役務等	件数	割合(%)	商品･役務等	件数	割合(%)	商品･役務等	件数	割合(%)
1	化粧品	3,252	28.9	健康食品	3,535	27.4	健康食品	3,931	27.9
2	健康食品	1,131	10.0	化粧品	2,668	20.7	化粧品	2,889	20.5
3	医療サービス*	851	7.6	医療サービス*	756	5.9	医療サービス*	833	5.9
4	エステティックサービス	385	3.4	エステティックサービス	346	2.7	エステティックサービス	395	2.8
5	歯科治療	343	3.0	賃貸アパート・マンション	296	2.3	外食	363	2.6

※表中の割合は、小数点以下第２位を四捨五入した値です。
※2021年度に商品別分類を変更したことなどにより、＊が付いているものについては、2020年度以前と2021年度での時系列の比較はできません（「商品・役務等」の名称が同じでも定義の変更により時系列での比較はできません)。

（２）危害内容

危害内容別にみると、１位は、「皮膚障害」4,433件（39.4%）で、2020年度（１位、4,525件）より92件減少しました（表３)。内容を商品・役務別にみると、「化粧品」が2020年度より470件増加して、2,964件と７割近くを占めており、次いで「健康食品」が295件でした。

２位は、「その他の傷病及び諸症状(注３)」2,866件（25.4%）で、2020年度（３位、2,635件）より231件増加しました。件数が多いものは「医療サービス」、「歯科治療」、「化粧品」などでした。

３位は、「消化器障害」1,181件（10.5%）で、2020年度（２位、2,845件）より1,664件減少しました。「健康食品」が2020年度より1,571件減少しましたが、638件と過半数を占めていました。このほか「調理食品」や「医薬品類」、「飲料」などの件数が多くなっていました。

４位は「擦過傷･挫傷･打撲傷」561件（5.0%）で、2020年度（４位、564件）より３件減少しました。件数が多いものは「商品一般」や「自転車」、「家具類」などでした。

５位は「熱傷」549件（4.9%）で、2020年度（５位、527件）より22件増加しました。件数が多いものは「エステティックサービス」、「医療サービス」などでした。

（注３）「その他の傷病及び諸症状」には、脱毛、切れ毛、歯の損傷、頭痛、腰痛、発熱、精神不安定等が該当し、根本的な原因が明らかでないものが含まれます。

表３．「危害情報」の危害内容別上位５位の推移

	2021年度	11,263 件		2020年度	12,919 件		2019年度	14,094 件	
順位	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)	危害内容	件数	割合(%)
1	皮膚障害	4,433	39.4	皮膚障害	4,525	35.0	皮膚障害	4,708	33.4
2	その他の傷病及び諸症状	2,866	25.4	消化器障害	2,845	22.0	消化器障害	3,300	23.4
3	消化器障害	1,181	10.5	その他の傷病及び諸症状	2,635	20.4	その他の傷病及び諸症状	2,761	19.6
4	擦過傷・挫傷・打撲傷	561	5.0	擦過傷・挫傷・打撲傷	564	4.4	擦過傷・挫傷・打撲傷	640	4.5
5	熱傷	549	4.9	熱傷	527	4.1	熱傷	570	4.0

※表中の割合は、小数点以下第２位を四捨五入した値です。

（３）被害者の性別・年代

危害を受けた被害者の性別件数は、女性が8,598件（76.3%）、男性が2,511件（22.3%）で、いずれも2020年度に比べて件数が減少しましたが、性別の割合はほぼ変わりませんでした（表４）。

年代別件数では、50歳代が2,297件（20.4%）と最も多く、以下、70歳以上2,075件（18.4%）、60歳代1,741件（15.5%）、40歳代1,720件（15.3%）、30歳代1,168件（10.4%）、20歳代917件（8.1%）、10歳代261件（2.3%）、10歳未満172件（1.5%）と続いていました。2020年度に比べて、10歳未満を除く各年代で件数が減少しました。

次に、被害者の年代別に危害の最も多い商品・役務等をみると、10歳未満は「菓子類」14件、20歳代は「医療サービス」で181件となっていました（表５）。10歳代と30歳代から70歳以上までは「化粧品」で、10歳代が65件、30歳代が231件、40歳代が494件、50歳代が875件、60歳代が732件、70歳以上が556件でした。

表４．「危害情報」の性別・年代別危害件数

性別 / 年代	男性		女性		不明・無回答（未入力）		計	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
１０歳未満	67	2.7	72	0.8	33	21.4	172	1.5
１０歳代	100	4.0	155	1.8	6	3.9	261	2.3
２０歳代	221	8.8	693	8.1	3	1.9	917	8.1
３０歳代	241	9.6	923	10.7	4	2.6	1,168	10.4
４０歳代	352	14.0	1,365	15.9	3	1.9	1,720	15.3
５０歳代	418	16.6	1,873	21.8	6	3.9	2,297	20.4
６０歳代	372	14.8	1,367	15.9	2	1.3	1,741	15.5
７０歳以上	506	20.2	1,567	18.2	2	1.3	2,075	18.4
無回答(未入力)	234	9.3	583	6.8	95	61.7	912	8.1
合計	2,511	22.3	8,598	76.3	154	1.4	11,263	100.0

※表中の割合は小数点以下第２位を四捨五入しており、内訳の数値の合計は100.0%にはならない場合があります。

表５．「危害情報」における年代別の上位５商品・役務等

順位 年代	1位	2位	3位	4位	5位
10歳未満	菓子類 14	外食 11	家具類 9	スポーツ・健康教室 パン類 7	
10歳代	化粧品 65	健康食品 34	自転車 25	美容院 22	医療サービス 13
20歳代	医療サービス 181	化粧品 151	エステティックサービス 135	健康食品 54	美容院 50
30歳代	化粧品 231	医療サービス 161	エステティックサービス 93	健康食品 86	賃貸アパート・マンション 60
40歳代	化粧品 494	健康食品 180	医療サービス 133	エステティックサービス 68	整体 67
50歳代	化粧品 875	健康食品 247	医療サービス 100	歯科治療 72	整体 57
60歳代	化粧品 732	健康食品 188	医療サービス 81	歯科治療 42	医薬品類 38
70歳以上	化粧品 556	健康食品 279	医薬品類 140	医療サービス 112	歯科治療 52
無回答 （未入力）	化粧品 144	医療サービス 64	健康食品 62	歯科治療 37	外食 34

２.「危険情報」の概要

2021年度に収集した「危険情報」は1,931件でした（2020年度：2,103件）。

（１）商品別分類別件数

商品別分類別にみると、１位は「住居品」（「電子レンジ類」、「家具類」、「電気掃除機類」など）582件（30.1%）で、2020年度より76件減少しました（表６）。これは、珪藻土（けいそうど）マットに関する報道の影響で2020年度に大幅に増加した「敷物類」が74件、「電気掃除機類」が15件、それぞれ減少したことなどによるためです。

２位は「車両・乗り物」（「四輪自動車」、「自転車」など）337件（17.5%）、３位は「教養娯楽品」（「電話関連機器・用品」、「携帯電話」、「テレビ」など）288件（14.9%）、４位は「食料品」（「調理食品」、「菓子類」など）267件（13.8%）、５位は「保健衛生品」（「ヘアケア用具」、「他の保健衛生用品」など）87件（4.5%）でした。

具体的に商品・役務等別にみると、１位は「四輪自動車」206件（10.7%）で、2020年度より23件減少しました（表７）。２位は「調理食品」98件（5.1%）、３位は「電話関連機器・用品」54件（2.8%）、４位は「自転車」49件（2.5%）、５位は「賃貸アパート・マンション」47件（2.4%）でした。

表６.「危険情報」の商品別分類の上位５位の推移

	2021年度	1,931 件		2020年度	2,103 件		2019年度	2,387 件	
順位	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)	商品別分類	件数	割合(%)
1	住居品	582	30.1	住居品	658	31.3	住居品	668	28.0
2	車両･乗り物	337	17.5	車両･乗り物	381	18.1	車両･乗り物	516	21.6
3	教養娯楽品*	288	14.9	教養娯楽品*	334	15.9	教養娯楽品*	334	14.0
4	食料品	267	13.8	食料品	287	13.6	食料品	318	13.3
5	保健衛生品	87	4.5	保健衛生品	110	5.2	保健衛生品	92	3.9

※表中の割合は、小数点以下第２位を四捨五入した値です。
※2021年度に商品別分類を変更したことなどにより、＊が付いているものについては、2020年度以前と2021年度での時系列の比較はできません（「商品別分類」の名称が同じでも定義の変更により時系列での比較はできません）。

表７.「危険情報」の上位５商品・役務等の推移

	2021年度	1,931 件		2020年度	2,103 件		2019年度	2,387 件	
順位	商品･役務等	件数	割合(%)	商品･役務等	件数	割合(%)	商品･役務等	件数	割合(%)
1	四輪自動車	206	10.7	四輪自動車	229	10.9	四輪自動車	346	14.5
2	調理食品	98	5.1	調理食品	97	4.6	調理食品	94	3.9
3	電話関連機器・用品	54	2.8	敷物類	77	3.7	自転車	59	2.5
4	自転車	49	2.5	電話関連機器・用品	58	2.8	電子レンジ類／電話関連機器・用品	52	2.2
5	賃貸アパート・マンション	47	2.4	自転車	55	2.6	―		

※表中の割合は、小数点以下第２位を四捨五入した値です。

（２）危険内容

危険内容別でみると、１位は「過熱・こげる」284件（14.7%）で、2020年度（１位、325件）より41件減少しました（表８）。件数が多いものは「携帯電話」、「電話関連機器・用品」などでした。

２位は「発煙・火花」281件（14.6%）で、2020年度（２位、298件）より17件減少しました。

件数が多いものは「テレビ」、「ヘアケア用具」などでした。

３位は「異物の混入」270件（14.0％）で、2020年度（３位、280件）より10件減少しました。件数が多いものは「調理食品」、「菓子類」などでした。

４位は「機能故障」215件（11.1％）で、2020年度（４位、220件）より５件減少しました。件数が多いものは「四輪自動車」、「自転車」などでした。

５位は「発火・引火」198件（10.3％）で、2020年度（６位、212件）より14件減少しました。件数が多いものは「電話関連機器・用品」、「電子レンジ類」などでした。

表８.「危険情報」の危険内容別上位５位の推移

	2021年度	1,931 件		2020年度	2,103 件		2019年度	2,387 件	
順位	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)	危険内容	件数	割合(%)
1	過熱・こげる	284	14.7	過熱・こげる	325	15.5	過熱・こげる	335	14.0
2	発煙・火花	281	14.6	発煙・火花	298	14.2	機能故障	326	13.7
3	異物の混入	270	14.0	異物の混入	280	13.3	異物の混入	304	12.7
4	機能故障	215	11.1	機能故障	220	10.5	発煙・火花	284	11.9
5	発火・引火	198	10.3	破損・折損	217	10.3	破損・折損	244	10.2

※表中の割合は、小数点以下第２位を四捨五入した値です。

○情報提供先

消費者庁　（法人番号5000012010024）

内閣府 消費者委員会　（法人番号2000012010019）

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165

別　添

＜参考資料　2021年度の「危害情報」「危険情報」における上位３商品・役務等の概要＞

１.「危害情報」

①化粧品（3,252件）

「化粧品」は3,252件で、危害情報全体に占める割合は28.9％でした。「化粧品」の内訳をみると、「シャンプー」が560件（17.2％）、「乳液」が477件（14.7％）、「化粧品その他」が474件（14.5％）で、2020年度より「シャンプー」が303件増加したことなどから、2020年度（２位、2,668件）より584件増加しました。

被害者の性別は、女性が2,899件と約９割を占めていました。被害者の年代別では、50歳代が875件（26.9％）で最も多く、次いで、60歳代が732件（22.5％）、70歳以上556件（17.1％）の順でした。

危害内容は、「皮膚障害」が2,964件（91.1％）、次いで「その他の傷病及び諸症状」248件（7.6％）の順でした。

＜事例＞

・シャンプーを定期購入し、使用したところ、まぶたが開かなくなるほど腫れ、医師に使用をやめるように言われた。販売サイトに体調不良の際は連絡するように記載されており、解約を申し出たが、家族や友人に譲るよう言われ、解約できなかった。（60歳代・女性）

・インターネット広告を見て購入したファンデーションを使用したら顔にかゆみと赤みがあらわれ、乾燥で皮も剥(む)けた。定期購入の解約を申し出たが、４回受け取るように言われた。（30歳代・女性）

②健康食品（1,131件）

「健康食品」は1,131件で、危害情報全体に占める割合は10.0％でした。「健康食品」の内訳をみると、各種サプリメントなどを含む「他の健康食品」726件（64.2％）、「健康食品全般」197件（17.4％）、「酵素食品」136件（12.0％）の順でした。2020年度より「高麗人参茶」が763件、「健康食品全般」が90件減少したことなどから、2020年度（１位3,535件）より2,404件減少しました。

被害者の性別は、女性が923件と８割以上を占めていました。被害者の年代別では、70歳以上が279件（24.7％）で最も多く、次いで、50歳代247件（21.8％）、60歳代188件（16.6％）の順でした。

危害内容は、「消化器障害」が638件（56.4％）で、次いで「皮膚障害」295件（26.1％）、「その他の傷病及び諸症状」148件（13.1％）の順でした。

＜事例＞

・インターネット広告で知ったダイエットサプリメントをインターネット通販で購入し、飲んだら下痢を起こした。翌月再度届いた商品を返送したが、返品は認められず、弁護士事務所から代金の請求書が届いた。どのように対処したらよいか。（60歳代・男性）

・豊胸サプリメントを飲んだら、吐き気を起こして具合が悪くなり急性肝炎で入院した。定期購入の解約は認められたが、支払いのことなど、販売店の対応に納得できない。（30歳代・女性）

③医療サービス（851件）

「医療サービス」は851件で、危害情報全体に占める割合は7.6％でした。「医療サービス」の内容をみると、美容医療に関する相談が568件（66.7％）を占めていました。

被害者の性別は、女性が677件と、８割近くを占めていました。被害者の年代別では、20歳代が181件（21.3％）で最も多く、次いで30歳代が161件（18.9％）、40歳代が133件（15.6％）の順でした。

危害内容は、「その他の傷病及び諸症状」が403件（47.4％）と最も多く、次いで「皮膚障害」193件（22.7％）、「熱傷」105件（12.3％）の順でした。

＜事例＞

・娘が目の下の脂肪をとる美容整形手術をしたところ、目の向きが不自然になり、受診した眼科で形成手術が必要と言われた。治療費を全額負担してもらえるだろうか。(20歳代・女性)

・照射レベルを上げてレーザー脱毛の施術を受けたところ、やけどがひどく、顔にあざが残った。補償の対象にはならないと言われたが、そのような説明は事前に聞いていないし、書面にも記載されていない。(20歳代・男性)

２.「危険情報」

①四輪自動車（206件）

「四輪自動車」は206件で、危険情報全体に占める割合は10.7％でした。「四輪自動車」の内訳をみると、「普通・小型自動車」138件（67.0％）が最も多く、次いで「軽自動車」60件（29.1％）の順でした。

危険内容は、「機能故障」127件（61.7％）が最も多く、次いで「発煙・火花」17件（8.3％）、「破損・折損」15件（7.3％）の順でした。

＜事例＞

・自動車のエアコンから風が出なくなり、カバーを外して確認すると部品が溶けて内部の基盤が焦げていた。

・12カ月点検を終えたばかりの自動車のハンドルが動かず、走行できなくなった。販売店から、電気系統の不具合の可能性が高く、原因を調べて修理すると言われたが返品したい。

②調理食品（98件）

「調理食品」は98件で、危険情報全体に占める割合は5.1％でした。「調理食品」の内訳をみると、「弁当」27件（27.6％）、即席みそ汁等を含む「他の調理食品」26件（26.5％）、「レトルト調理食品」15件（15.3％）の順でした。

危険内容は、「異物の混入」が78件と８割近くを占めていました。

＜事例＞

・インターネット通販で購入したフリーズドライの味噌汁を飲んだところ、ステンレス製の金属片が混入していた。販売業者に架電しているが、混雑してつながらない。

・コンビニエンスストアで購入したチャーハンに長さ４～５㎝の細いプラスチックが混入していた。どのように対応すべきか。

③電話関連機器・用品（54件）

「電話関連機器・用品」は54件で、危険情報全体に占める割合は2.8％でした。「電話関連機器・用品」は、充電器に関する相談が多く、危険内容は、「過熱・こげる」21件（38.9％）、「発煙・火花」14件（25.9％）、「発火・引火」13件（24.1％）の順でした。

＜事例＞

・USBケーブルでパソコンにつないでスマートフォンを充電していたところ、焦げ臭くなり、見てみると、充電ケーブルの先が溶けていてスマートフォンが故障した。

・１年前に購入したモバイルバッテリーを夜に机の上で充電していたところ、本体がとても熱くなったので充電ケーブルを外しておいた。翌朝、本体表面のプラスチックが割れており、机も熱で変色していた。